

縄文時代における日本の丸木舟について

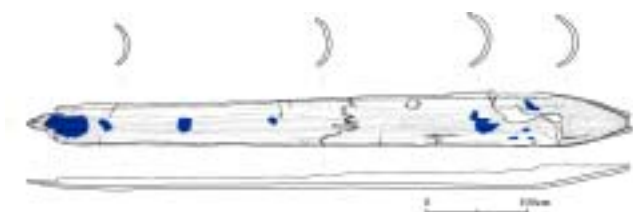
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2952

「縄文時代における日本の丸木舟について」

吉田 風太

日本では古来より、船を用いた交通や運輸、漁業などがおこなわれてきた。しかし丸木舟に関する研究は考古学の分野においてはあまり活発ではない。西村真次氏の平面形に基づいた形式分類や、清水潤三氏による平面形と横断面のとの組み合わせによる年代比定などがあるが、これらの研究は形態のみに注目しており、使用された環境は考慮されていない。しかし、外水面と内水面では水面の状況が大きく異なっており、自然環境が形態に大きな影響を与えたと推察される。従って、丸木舟の形態が使用された環境によってどのような違いを示すのかをみていく。

型式と年代の関係について、時代ごとに特徴的に用いられた形式は見出せず、丸木舟の型式は時代に沿って変化していったものではないと考えられる。型式と使用された環境については、先行研究で述べられている「海洋型」と「河川型」といった明確な使い分けは見られず、関連性は少ないと思われる。丸木舟の用材には、スギが最も多く用いられており、その次にカヤ、ムクノキ、クリなどが用いられている。樹種選択には木材の入手し易さ、加工し易さ、樹形、丸木舟を加工するに十分な大木であることが関係していたと考えられる。従って、丸木舟の型式の違いは時代・使用環境共に明確な傾向は捉えられなかったものの、a 型式が海岸付近、湖沼付近で多く用いられており、b 型式は主に湖沼付近を中心に発達していったと考えられる。



鳥浜貝塚出土 1号舟